

故事成語「朝三暮四」確認テスト（荘子・列子） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

解答・解説

問1 読み=そこう。意味=猿を飼っている老人。「狙」は「さる」の意。

問2 之（これ）を養（やしな）ひて群（むれ）を成（な）し。／「成」は四段動詞「成す」。「養ひて」と連用形で続ける。

問3 能（よ）く狙（さる）の意（い）を解（かい）し。／「能く」は「上手に・よく」。「解し」はサ変動詞「解す」の連用形。

問4 猿もまた狙公の心（気持ち）を理解していた。／「亦」は「～もまた」。「公の心を得たり」で、猿の側も飼い主の心を読み取っていたことを表す。

問5 自分の一家の食料を減らして、猿の食欲（食べたいだけの量）を満たしてやった。／「損」は「減らす」、「充」は「満たす」。狙公が猿をかわいがるあまり、自分たちの食料を削ってまで猿に与えていたことを示す。

問6 一家の食料。食いぶち。「口」は食べる人数・食いぶちの意。

問7 猿に与えるための（芋などの）食料が乏しく（足りなく）なった。／直前で家族の食料を削って猿に与え続けた結果、蓄えが底をつきかけたのである。

問8 名称=再読文字。意味（用法）＝「将（まさ）に～んとす」と読み、「今にも～しようとする・～するつもりだ」という意志・近い未来を表す。ここでは狙公が猿のえさを制限しようとしていることを示す。

問9 多くの猿たちが自分（狙公）になつかなくなるであろうことを心配して。／「恐る」は「心配する・おそれる」。「不馴於己」で「自分になつかない」、「也」は「～であろうこと」を示し、「之」は主語を示す働き。

問10 だます。あざむく。言葉巧みにまどわすこと。

問11 （お前たちに芋を与えるのに、）朝に三つ、夕方に四つにしよう。それで足りるか。／芋の数の割り当てを猿に提案している場面。

問12 猿たちは皆立ち上がって怒った（「衆狙皆起ちて怒る」）。朝の数が三つと少ないことに不満を示した。

問13 疑問（または相手への問いかけ）を表す助字。「～か」と訳す。文末に置いて「足りるか（どうだ）」と猿に尋ねている。

問14 猿たちは皆ひれ伏して喜んだ（「衆狙皆伏して喜ぶ」）。朝の数が四つに増えたことに満足した。

問15 読み=とち（とちのみ）。意味=とちの実。どんぐりに似た木の実で、猿のえさとなる。「橡（とち）」と同じ。

問16 読み=なんぢ（なんじ）。意味=お前（たち）。二人称の代名詞で、ここでは狙公が猿に呼びかけている。

問17 違いはない。朝三+暮四=七つ、朝四+暮三=七つで、一日の合計はどちらも同じ七つだから。猿は朝の数の多い少ないだけにとらわれて、総数が変わらないことに気づいていない。

問18 目先のわずかな違い（朝の数が三か四か）にとらわれて、実質（一日の総量）は同じであることに気づかない、愚かで短慮な態度を風刺している。あわせて、言葉巧みにだまされる人間の愚かさも風刺している。

問19 (1) 目先の違いにとらわれて、結局は同じであることに気づかないこと。／(2) 言葉巧みに人をだまし、丸め込むこと。

問20 『莊子（そうじ）』（齊物論）と『列子（れっし）』（黄帝）。／同じ故事が両書に見られ、出典として併記される。

問21 (1) 朝令暮改（ちょうれいぼかい）…朝に出した命令を夕方には改める意で、方針や命令が頻繁に変わって定まらないこと。／(2) （例）「待遇を少し変えただけで納得させようとは、朝三暮四のやり方だ。」など、目先の違いで人をごまかす・ごまかされる文脈になっていれば可。